

計画を立てることの意味



今年度より進路指導部では「春の勉強合宿」を実施します。これは「自学自習の方法を確かなものとする」ことを目標に3月下旬、名護で4泊5日の勉強会を行います。この合宿は自習が中心となりますが、ただ行って思いついたものを学習するのではなく、先を見据え、今何が必要かを考えた上で参加することが大切です。そこで、冬休み前に、最終目標と3か月後の目標、1月～3月までの計画を参加者それぞれに立ててもらいました。今回は、以前にも何度か触れましたが、「計画」について、改めていくつかポイントを挙げてみたいと思います。

何が必要かを考える。

大学受験のため、定期試験のため、検定のため、と目的はさまざまであるが、やるべきことを考えないと始まりません。今何が必要かをリストアップしましょう。大学受験が目標の場合は、

- ・センターと二次の配点
- ・センターで課される科目と配点
- ・合格ライン
- ・二次で必要な得点率

など、しっかりと調べておかなければなりません。

また、過去問題を活用する場合には、自分ができること、できそうなこと、できないことをしっかりと分析して、何から学習するかリストアップしていきましょう。過去問題でなくても、定期試験範囲の中で今自分ができること、できそうなこと、できないことをリストアップすることも可能です。

長期計画・中期計画・短期計画を考える。

例えば、長期計画として 大学に合格するため国語の偏差値を3年後に10上げると考えます。そうすると、1年後には5、2年後には7といったようになるわけです。その上で国語なら古文単語を1年で100、2年で200、3年で300などといった具体的な目標を立てていくわけです。ゴール(目標)を考えないとやる気が出ないと思いますので、しっかり目標を立てましょう。

短期計画は具体的に。

定期試験1週間前ということもあり、既に計画を立てた人も多いと思います。自分が立てた計画を見返して下さい。ただ「復習」などになっていませんか？これではちょっとノートを見ただけでも達成、他のことを考えながら1ページを30分間見ている達成、となってしまいます。

問題集2ページ、教科書の例題2問、古文を3回音読、教科書3ページ分をノートにまとめる、など、達成したかどうか分かるような計画を立てましょう。今日のうちに明日の予定を具体的に立てなおしておく、今日これから学習するものを具体的にリストアップする、といっただけでも効果があります。

クリアする目標が明確になれば、達成した時の自信にもつながります。

達成可能な計画をたてる。

いくら高い目標を設定したとしても、ほぼ無理だと考えられる計画は意味がありません。自分ができる計画、または今の自分より少しレベルアップした計画をたててみましょう。「成功者は、達成可能な計画を立てている」という言葉もあります。インターネットでこの言葉を見つけた時に、分かりやすいたとえがありました。それは、100mを走る時には全力で走るが、10kmを走る時にはペースを考えるとというものです。自己の状況を理解し、達成可能なペースを設定しましょう。

実行したかどうかを振り返る。

計画はその通りにいけば良いのですが、うまくいかないこともあります。足りない時は補わなければ、目標には到達できません。しっかりと振り返りましょう。振り返りは、ページ数などのチェック以外に、時間のチェックもしてみましょう。計画が時間ごとの設定でなくとも、教科のバランスや時間の過ごし方を反省するのに有効です。机に向かっていても学習できていないこともあるので、ストップウォッチで測って、記録しておくとも有効です。

予備日を設けておく。

計画がうまく進まない、どうにもならなくなります。計画を修正することも必要ですが、予備日を設けておいて、足りなかった分を補うという方法もあります。計画通り進んだ場合はプラスアルファに挑戦すると良いでしょう。

学習は何となく進めるのではなく、主体性を持って計画を立てることが大切です。その中で、自分にあったものを見つけていきましょう。習慣化してしまえば確実に力がつきます。

計画は大事！！時間を有効に使うべし！！

ノートをうまく使おう！！

私がいつも気になっていることの1つとして「ノート」があります。ノートは何のために書くのか、もう一度振り返って欲しいと思います。1つ目的を挙げるとすれば、「復習」に使うためでしょう。そのためには、どのようなことを心がければ良いのでしょうか。まず、敢えてこんなノートはダメ！という例を挙げてみたいと思います。あなたに当てはまるものはありますか？

ゆっくり時間をかけて丁寧に書いてあるだけのノート

見た目が美しいノートができあがるが、授業を聴いておらず、あまり考えていないのでまったく定着しない。

カラフルなのは良いが色遣いに意味のないノート

何が重要かが全く分からず、復習の際には目が疲れるだけ。

字が雑過ぎて何を書いているのか分からないノート

自分で理解できない字を書いても復習に使えない。

板書を写しただけのノート

考えて写しているのならまだしも、なぜそれが書かれているか、書いていることは何を意味するかを理解しようとしなければ意味がない。

誤字だらけのノート

板書を写しているだけの人も、写し間違えて誤字が多いというケースをよく見る。これでは文字の練習にもならない。

ではどんなノートが良いノートと言えるのでしょうか。ポイントを以下に挙げます。

重要ポイントが分かるノート

教科書の太字に該当する部分、先生が重要だと言った部分、自分が気になった部分などに線をひく、で囲む、マーカーで印をつけるなど一目で分かる工夫をする。

メモがあるノート

先生が補足した内容、自ら他の資料を見て補足した内容、自分の考えなど、余裕を持って書き込めるスペースを作っておく。

絵や図のあるノート

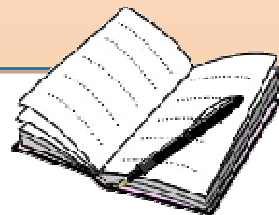
これに時間をかけ過ぎてはいけませんが、図や表にまとめると非常に見やすい。

考える過程が見えるノート

問題を解いて間違えた時などは絶対に消さず、どこをどう間違えたかを確認できるようにしておく。消してしまうと同じ間違いをする。

他の教材との繋がりが分かるノート。

教科書や資料集などの該当ページを記しておくことによって、すぐに確認することができる。



君は挨拶ができるか

進路通信で挨拶の話をするのはなぜかと思っている人がいるかと思いますが、挨拶はどんな場面においても重要です。就職、進学、普段の学習、全てに必要なことです。

就職に関して

私の授業では頻繁に話をするのですが、関東のある銀行に勤めている方が、「体育会系の人を採用したい」という話をしていることがありました。理由は「挨拶ができる」「忍耐強い」ということでした。体育科系の人だけができるというものではありませんが、そんなイメージを持っている人はいるのでしょうか。初対面の人に対する挨拶は第一印象を良くします。普段の挨拶は雰囲気良くします。挨拶ができる人と仕事をしたいというのはもっともなことだと思います。

進学に関して

理由は上記のものと同様です。挨拶が出来る人は、面接等での印象が良くなります。気持ちが伝われば、良い結果が待っているでしょう。

普段の学習に関して

朝起きての挨拶は目を覚ますことにつながります。授業開始の挨拶はこれからしっかり学習するという心構えにもなります。だから授業に入ってしまうと、内容もいまいち入ってきません。もちろん、学びたくても学べない人が世界には沢山いるわけですが、感謝の気持ちも忘れてはいけません。

挨拶はコミュニケーションであるので、しっかりと声を出して相手に伝えて欲しいと思います。ただ、こんな話があるブログで見ました。

出張で行ったある学校の生徒は、大きな声で挨拶をするということはないが、皆笑顔で会釈してくれる。こういうのもいいもんだな、と感じた。というものです。これは、声を出さなくていいという話ではなく、心のもった対応をしている例をして受け止めればいいのか。その時その時に適した挨拶を、心をこめて行えば伝わるのでしょうか。相手が声をかけてくれたのにただうなずくなどというのは、挨拶をした方が傷つくのでやめて下さいね。

3月5日に今年度の最後の模擬試験(高1・高2マーク模試)があります。今までの反省をふまえ、意味のあるものにしましょう。